

## 会議録

会議の名称	西東京市学校選択制度に関する検討懇談会 第8回会議
開催日時	令和4年12月12日(月) 午前10時00分から午前11時15分まで
開催場所	西東京市役所田無第二庁舎 4階 会議室
出席者	<委員> 田口康之、石井卓之、高橋 亨、湯浅泰美、渡邊俊一、三沢英俊、古家新一、浅野周子、宮崎徳子、戸本堅固、松尾新太郎、松本 静、北澤 敏、小松豊明、荘 葉子(順不同、敬称略) <事務局> 近藤 直(学務課長)、坂本眞実(課長補佐兼学務係長) 根岸 伸太郎、長谷川 滋子(学務課学務係)
傍聴者	0人
議題	1 開会 2 会議録の確認について 3 報告書(案)と概要版について 4 今後の予定について 5 閉会
会議資料の名称	資料1 会議録(第7回)(案) 資料2 西東京市学校選択制度に関する検討懇談会報告書(案)修正版(修正箇所のみ) 資料3 西東京市学校選択制度に関する検討懇談会報告書(概要版)(案)
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

### 会議内容

	<p>&lt;○発言者：発言内容&gt;</p> <p>開会</p> <p>議題2 会議録の確認について(資料1) 事前に配付された会議録(案)について、異議なしと認められた。</p> <p>議題3 報告書(案)と概要版について(資料2、3) ○座長：資料2は第7回からの流れで、報告書の内容の文言等を整理したものである。本懇談会で話われた内容が、今後どのように活かされていくのかという点もまとめてある。通学区域の見直しや学校選択制度を含む就学手続の見直しの可能性と地域学校協働活動の促進を願う旨でまとめられている。意見等はあるか。 ○委員：前回の懇談会で話に出た廃止の可能性について、今回の資料にはその記述が見当たらない。抜本的な見直しという文言があり、これが廃止を含めた表現と理解するが、直接的に廃止の可能性についての記載がないことと、発展的解消という言葉についてどう考えているか。 学校側の意見集約についても、同様に前回議論されたが、それがどこに書かれるのか確認したい。 教育機会の公平性について、本懇談会では議論されていないが、これからの本市の教育制度の在り方として考えなくて良いのか。例えば、柳沢中学校では生徒数が減っており、部員が1名しかいない部活があるなど、学校選択制が大きく影響しているという状況があり、他の自治体でも適正な規模が維持できなくなったということがあるので、そのような議論をもう少しすべきでないかと思う。</p>
--	--

○座長：これまでも廃止の可能性については、何度も意見をいただいている。学校側の意見の集約、機会均等についての説明を事務局よりお願いしたい。

○事務局：廃止の可能性についての表現は、昨年度行ったアンケート結果から市民意識としては廃止すべきとの回答は1%に満たなかった。学校施設適正規模・適正配置の検討等で総合的に市全域を見直す段階において、より本市の実情を踏まえ、制度の廃止も視野に入れた検討ができるのではと思う。そのため、本報告書では具体的に廃止の可能性に踏み込むというよりは、制度を廃止した自治体、未導入の自治体の具体的な動向を注視したうえでの検討を記載することになるが、4ページにある廃止した自治体、未導入の自治体の理由が本市に全て当てはまる訳ではない。発展的解消という言葉を入れるか否かも委員の方々のご意見を踏まえ、調整を図ることができればと思う。

本懇談会には小学校、中学校の委員の方々にも出席いただいております。また事務局からも小学校及び中学校の校長会に本懇談会の検討状況等も報告している。学校側の意見集約については、今後、廃止も視野に入れた検討の際にはご意見をいただくということで、教員の業務に影響しないようアンケート等の実施方法についても校長会と調整しながら考えていければと思う。

教育機会の公平性、平等性は難しい話である。柳沢中学校の生徒数が減っている点については、部活は中学校共同で実施しているところもあり、また学校選択制の受入枠の適切な調整により昨年は入学者も増えている。受入枠の調整により学校規模も一定程度、減少・縮小を防ぐことができると考える。教育機会の公平性、平等性については、国が示している学習指導要領や学校設置に係る様々な指針等があるが、地域性、児童数、住宅開発などを考慮すると深い議論になる。学校選択制の学校規模への影響という点は、各校と協議しながら、適切な対応により学校の体制等、子ども達が安心、安定した学校生活を送れるように取り組んでいければと考えている。

○委員：廃止の可能性について、今回加えた抜本の見直しというのは具体的に何を指しているのか。廃止という表現が強すぎるので、発展的解消という表現にしたのか。学校側の意見集約は、前回の会議で、今後検証検討すべき項目としてあげてはどうかという意見があった。そのあたりが本報告書に入るのか。前回、反対の意見がなかったのに、入れるべきではないか。

○事務局：発展的解消の具体的な内容について、以前お話した指定校変更制度に移行する案などがあるが、指定校変更により切り替えた場合、児童生徒数の見込みがしづらくなってしまうというリスクがある。内容について記載するかは調整させていただければと思う。

学校側の意見集約は、むすびにかえてに学校の意見等も確認しながらという主旨の文言を入れて調整を図れればと思う。

○委員：前回の会議では、座長も制度の廃止についての意見があったことを記載するのが良いと述べられている。そういった意見があったということは記載してもらえればと思う。

○座長：これまで委員が言われてきた廃止の意見について、抜本の見直しと総じて見てもいいかと思うが、廃止した自治体もある中で、そういった意見があった点は報告書に含めてもらえればと思う。

○委員：柳沢中学校のことだけ言っているのではなく、自身が関わっている自治体の学校でも同じような議論があり、全体的な方向性としての意見である。

○委員：前回、今後のスケジュールを記載することを意見したが、そのスケジュールで進行するためのマイルストーンを記載して欲しい。この報告書が教育長に渡され、その結果、学校選択制度の改革やプロジェクトの主体や担当が決まり、その中には通学区域の見直しがあるかと思う。始期、中間報告、最終案の報告があり、その後提案される流れになるかと思う。その後、プレ導入、全導入となる。こういった全体像が報告書の中にある。3年後、5年後などの目安で良いので示さないか。検討に2年近くかけて、最終的な決定はいつになるのか、どういうことを最終的にどう改革していくのかという全体像が示され、現在、どこの段階なのか示されればと思う。

○座長：このたびは検討懇談会であり、本懇談会でまとめた報告書の内容が次なる検討委員会等で議論されていくのではないかとと思う。

○委員：本報告を受けてどのように動いていくのか決まっていなくてもとるべきマイルストーンは

あると思うが、通学区域の改革をいつやるのか、本懇談会の報告はどうなっていくのか。

○事務局：前回、本懇談会の報告書がどう活かされていくのか、どこの部署が何を担当しているのかなどのお話もあった。学校施設適正規模・適正配置については、別の部署が担当しており、17ページの中長期的な検討項目の部分と重なるため、本懇談会の報告内容は伝達する。住環境の変化により、児童数の変動がある中で、市の学校施設は重要な位置を占めている。具体的にいつまでには言及できないが、マイルストーンに落として計画的に進め、最終的にどのようなかたちとなるのかなどの報告書への記載は調整させていただければと思う。市の総合的な取組として教育に関わらず福祉なども含めた検討となるので、関係部署へ情報提供し、今後の改革などの実現に向けて投げかけていければと思う。17ページには短期的な検討項目もあげており、実際に1年準備してその後実現の可能性がある取組みもあるので、申立時期の早期化、今まで以上に適切な受入枠の調整を行うことなどは校長会と調整を図りながらできる内容ではないかと考えている。実現可能なマイルストーンは考えていくべきことではあるかと思うが、報告書に記載するか調整できればと思う。

○委員：委員の発言はよく分かる。細かなスケジュールをいれようとは私は思わないが、少なくともこの懇談会が何のために開かれ、どのように活用されていくのか分からないままにするのではなく、何のための場であったかということをはっきりと明らかにしていければと思う。

○副座長：懇談会ではいろいろな意見が出て、どんな考えが出て、その中に大事なものがある。この後、事務局から教育長への説明の際にどんなことが議論されたかなどを伝える。本市では2023年までの教育計画があるが、その先へ影響を与えることができると思う。

○委員：何のための懇談会だったかは話合ったものの価値に関わることで大事であると思う。いろいろな立場の人が意見することで議論する内容の整理はされてきたと思う。マイルストーンやゴールをどうするかも大事な議論かと思うが、それを次にどこでやるのかは課題を整理する中で出てきたことかと思う。事務局も言っていたが、教育委員会だけでなく、市では公共施設の適正配置を全体的に見直そうとしており、そことの関連は出てくるためスケジュールをリンクさせていかなければならない。通学区域の見直しは公共施設の適正配置と絡めながら課題整理した後に、教育長のご判断もいただきながら本懇談会で出てきた内容を議論していくべきではないかと思う。資料として入れるかは別として、タイムスケジュールも含めて明確にしないとゴールは見えてこないということはあるかと思うので、時間がかかる話であるかと思うが、見通しを持つことも大切かと思う。

○座長：いろいろ意見や質問等が出され、一定程度まとまってきたと思うが、要望も含め何かあるか。

○委員：今後のスケジュールが示されるとやりやすいのではと感じた。本市が進めているコミュニティスクールは地域を基本として地域とともにやっという流れである。今までは校長のリーダーシップによる学校運営が求められていたと思うが、これからは地域の意見を聴きながら、かつ校長のリーダーシップも併せもつようなかたちに変わってきている。これまで話合われてきた内容を地域と一緒に考えていけるようなことにつながっていければ良いと思う。

○委員：私のいる学校は学校選択制度によって生徒数、教員数が増え、施設面でも様々な影響があった。その立場から見た観点と本懇談会でいろいろな立場からお話いただいて考えさせられるところがあった。人口動態が学区でも変動しており、長期的な減ってはいるが、短期的には増えることもあり、学校選択制度の受入枠の調整を活用している部分もある。

コミュニティスクールなどいろいろな分野で動きがある中で、他の施策も含め、学校選択制度もバランスを取りながら動いているので今後も考えていきたい。

○委員：生徒数が減少している地域があると話があったが、向台町は向台小学校の児童数が劇的に増えたことで、田無第四中学校の生徒数も増えている。向台小学校の児童数は減ってきているものの、学校施設適正規模・適正配置では12学級から18学級が適正という中で、学級数が減っても26学級ほどである。今の5年生は現在5学級だが、入学時は6学級であった。学童クラブに通わせたいという家庭も多く、学校内にどう設置するかという課題もあった。教室の改修などの影響もあり、令和7年度までに35人学級に移行するとさらに影響が出てくるため、学校選択制度は廃止すべき

で、配慮すべき人を指定校変更制度で救う方向で考えるべきではないかと最初から思っていた。向台小学校にはふれあい学級があり、そこで地域の方が将棋を教えてくれたり、書道を教えてくれたりというものがあったが、学童のスペースになったということで地域協働にも影響が出ている。場所を確保したいが、できないという矛盾が生じている現状がある。そういうところは通学区域も含め、教室が余っている学校と足りない学校について、その都度柔軟に対応していくことも必要ではないかと思う。

○委員：大きなマンションができ、児童数に大きな偏りが出ていると思う。学区域の見直しを何年もかけて行うよりも、官公庁で検討のスピードアップが図れると良いと思う。

○委員：児童数の減少や増加があり、空き教室がなく厳しい学校もある。廃止すべきか継続が良いのか揺れる部分があったが、保護者は子どもが安心して通える学校を作って欲しいので、ここで方針をきちんとすることで将来に向けて明るいゴールを出していければ良いと思う。部活も含め先生方のご苦労もあるので、現実には厳しい部分もあると感じた。

○委員：廃止か継続かという点でアンケートに偏った部分があるかと思う。1年程度で集中して議論しても良かったのではないかと思う。

○委員：親という立場で、この懇談会でのどういうことを話合うのかという方向性を始めの方で教えていただけるとスムーズだったと思う。アンケートに関する特別支援学級の話が少なかったため、話が聞けたら良かったかと思う。

○委員：いろいろな面で大きな課題であり、考えていかななくてはならないことだと思う。現場の学校を預かる者として、短期的な検討が出てきたところで、早急にしっかりとやっていっていただきたいという願いである。

○委員：皆さんと検討できたことは意味があったかと思う。報告書の意味が深いため、むすびにかえてのところの6行目に「就学手続の見直し」、「スケジュール感」、「公共施設の検討等」という言葉を入れておいたほうが、次回の検討懇談会に役立つのではないかと思う。

○副座長：委員の方々が本市のことを考え、どうしていけばいいかという熱意を感じ、これは大切なことだと思う。社会のスピードが上がっている中で、学校の取組もスピードを上げていかなければならない状況になってきている。以前、児童数1,000人超で40学級の校長をやっていた際には、学校行事の運営が難しく、施設の改修などに追われていた。委員も言われていたが、学校単独では動けず様々なしがらみや関わりがあるため、大枠で考え、皆様から多くの意見を出してもらい、市が検討して進めていくといろいろなことがやれると思う。本懇談会の報告が一石を投じて、新しい動きになることを期待している。

○座長：懇談会というかたちで進んできて、委員の皆様がより深い部分で話合われてきた。本懇談会の報告書の内容や思いが、教育委員会を始め各組織で情報共有され、事務局を通じ取組みの実現に向けてつなげていってもらえればと思う。

#### 議題4 今後の予定について

○事務局：今後の報告書完成までの過程及び庁内等における検討報告のスケジュールを説明。

閉会